

就職に強い埼玉工業大学



埼玉工業大学
キャリア支援センター長・教授
西田 優



1 大学の概要

本学は1903年、当時の東京市浅草区に東京商工学校として生まれました。技術や商いは丁稚奉公で学ぶという時代に、近代的な学校教育で現場の技術者、指導者を育てることを目的として誕生した学校です。その後、埼玉県に移転し、高専制度発足の1962年に聖橋工業高等専門学校となり、1976年に4年制大学化を果たしました。なお、本学は東京都文京区の浄土宗寺院を経営母体とする、日本で唯一の仏教系工業大学でもあり、「テクノロジー」とヒューマン性の融合と調和」という理念を掲げています。

現在は、工学部に機械工学科（機械工学専攻、ロボット・スマート機械専攻）、生命環境化学科（バイオ・環境科学専攻、応用化学専攻）、情報システム学科（IT専攻、AI専攻、電気電子専攻）、人間社会学部に情報社会学科（経営システム専攻、メディア文化専攻）、心理学科（臨床心理専攻、ビジネス心理専攻）の2学部5学科11専攻を擁します。

近年最も注目を集めている研究は、自動運転技術で、すでに国内各地で試験走行を重ね、大学と最寄り駅の間を走るスクールバスとして大型自動運転バスの公道走行も実現しています。この研究は、日本で唯一のAI専攻の研究者が中心となって行っています。

2 就職実績

本学に入学する学生の中には、研究や学生生活の充実を求めると同時に、就職の強さにひかれて入学する学生も多く存在します。大学院進学希望者等を除く就職希望者に占める就職率は6年連続で98%を超えています。その就職先の多くは、製造業の集積地北関東

を中心とする地元の有力企業です。また、大学通信社が集計・発表する有名企業への就職率も2021年から3年連続で国内全大学中ベスト100位にランクインしており、国内外の有力企業へも毎年多くの学生が就職しています。機械工学専攻の学生は重工業の企業、完成車メーカー、精密機械メーカーなどへ、応用化学専攻の学生は総合化学メーカーや食品メーカーへ、電気電子専攻の学生は重電、家電の各メーカーなどへと専門分野の業界に就職しています。その一方で近年、多くの企業が業務のIT化を目指しており、IT専攻、AI専攻、経営システム専攻の学生は業界を問わず様々な企業に就職しています。

3 キャリア教育

本学では制度上、工学部の生命環境化学科と情報システム学科の学生は1、3年次にキャリア科目を必修で受講します。また、機械工学科の学生は1年次に選択で、3年次は必修で履修します。さらに、人間社会学部の情報社会学科、心理学科の学生は2、3年次に選択で履修します。その結果、実態としては全学科の多くの学生が、1、2年次にキャリア形成に関する基礎科目を、3年次に応用科目を履修しており、早い段階から卒業後の進路について考えます。

さらに、全学の3年生を対象として後期に開講している選択のキャリア科目には、大手企業への就職を本気で目指す学生が集まり、熱心に講義を履修しています。これらの講義はすべて、民間企業出身のキャリア支援センター専任教員が担当しています。

4 就職支援体制

本学では、就職課の職員が学科担当

制でそれぞれの学科の学生を担当しています。学年500人程度の小規模大学である強みを生かして、職員は担当学科の学生の全員面談も実施しており、職員と学生の間で顔の見える関係を構築しています。

これと並行して、学部各学科と大学院各専攻の就職担当教員が集まって就職委員会を形成しており、その就職担当教員と就職課の学科担当職員が協力して、学生の就職活動を支援しています。学生の相談に乗るキャリアカウンセラーも複数常駐しています。カウンセラーの方々は学生にとっては頼りになる相談相手で、面談の予約枠は勢いよく埋まっています。

また、キャリア支援センターの教員は、2012年のセンター発足以来、国内外の大手有力企業への就職を目指す全学科の学生を対象に個別指導を行っており、年々大手企業への就職者数は増加しています。

さらに、創立120年の歴史をもつ本学の卒業生の働きぶりは多くの企業様からご評価いただいており、地元企業、グローバル企業の採用担当者様が、毎年本学の学生の採用にお力添えくださっています。その卒業生の方々も、経営幹部としてまたはリクルーターとして頻繁に大学にお見えになり、学生たちにご助言をくださいます。

これらの就職課職員、学科の就職担当教員、キャリアカウンセラー、キャリア支援センターの教員と、卒業研究を担当する各学科の教員が連携して学内で学生の就職活動を強力に支援しています。その一方で、卒業生や採用企業の皆様にも学外から支えていただいています。その結果が、「就職に強い埼玉工業大学」という評価となって学生募集を下支えしています。